

北海道胆振東部地震から6年を迎えて ～ 厚真町長メッセージ

北海道で初めて震度7を記録した平成30年北海道胆振東部地震から、6度目の夏が過ぎようとしています。最愛のご家族やご親戚、ご友人を失われた方々のお気持ちを思うと、尽きることのない悲しみが胸にこみあげてまいります。改めてこの震災で犠牲となられた37名の方々に衷心より哀悼の誠を捧げます。

災害復旧は本年3月をもって国直轄の砂防事業、かんがい排水事業が竣工し、北海道施工による治山事業も計画通り進められています。北海道と厚真町が中心となって施工している森林再生は概ね計画通りの進捗状況ですが、心のケアと同様に長い年月を要するものと考えており、引き続き丁寧にさまざまなアプローチを続けてまいります。

本町においては、復旧と並行して復興への取り組みにも挑戦していますが、一方で、いつ起きてもおかしくない自然災害に対する備えにも最優先課題として向き合っています。庁舎周辺整備や防災・減災対策、エネルギー地産地消や省エネルギー・創エネルギー・吸収源対策を官・民・学で総合的に取り組んでいくカーボンニュートラル政策を展開し、着実に実装しながら復興の新たな骨格としています。新たな国土形成軸である二地域居住政策を活用した厚真町が持つリソースの最大化、分野別IoT技術の導入やSociety5.0、DXなど社会革新を積極的に取り込みながら次世代の未来創造に挑戦してまいります。

私も自然災害の語り部として様々なところで講演を重ね、体験と教訓の伝承に努めてまいりましたが、本年1月元旦に発生した能登半島地震と関連する事故は、その被害の甚大さとともに、予測不能な運命に大きな衝撃を覚えました。近年ではさらに巨大な地震災害をもたらすことが予想されている日本海溝・千島海溝周辺や南海トラフでの海溝型地震災害に対する警鐘が鳴らされています。気象変動も激しさを増すなか、全国的に大雨災害などが多発しており、8月末には本町においても、記録的な豪雨に見舞われ、収穫間近な圃場が大きな被害を受けました。全国各地で頻発・激甚化する災害に備え、これからも防災・減災対策に全力で取り組んでいかなければなりません。

結びに「誰一人として取り残さない」を合言葉に「強靱でしなやかなまち」、「挑戦を諦めないまち」として輝いていられるよう、町民一丸となって、未来創生と持続的発展に向けた歩みを着実に進めてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年9月6日

厚真町長 宮坂尚市朗